

SciREX オープンフォーラム 2025.
11月21日. 15:45-16:55

パネル討論 「SciREXの経験と蓄積を未来にどう生かすか」

“政治・軍事・経済・生活・価値観の激変の15年と、
新常態に移行する？ 次の10年： - 2011 – 2025 – 2035 – ”

パネリスト

林隆之氏 政策研究大学院大学教授

赤池伸一氏 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 総務研究官

中澤恵太氏 文部科学省 研究振興局 基礎・基盤研究課長

安藤二香氏 未来工学研究所 主任研究員

有信睦弘氏 叡啓大学学長

モデレーター


有本建男 政策研究大学院大学 客員教授

SciREX事業とは


SciREX事業（＝科学技術イノベーション政策における政策のための科学推進事業）2011年～

科学技術イノベーション政策におけるエビデンス・ベースド・ポリシーの実現を目指す。

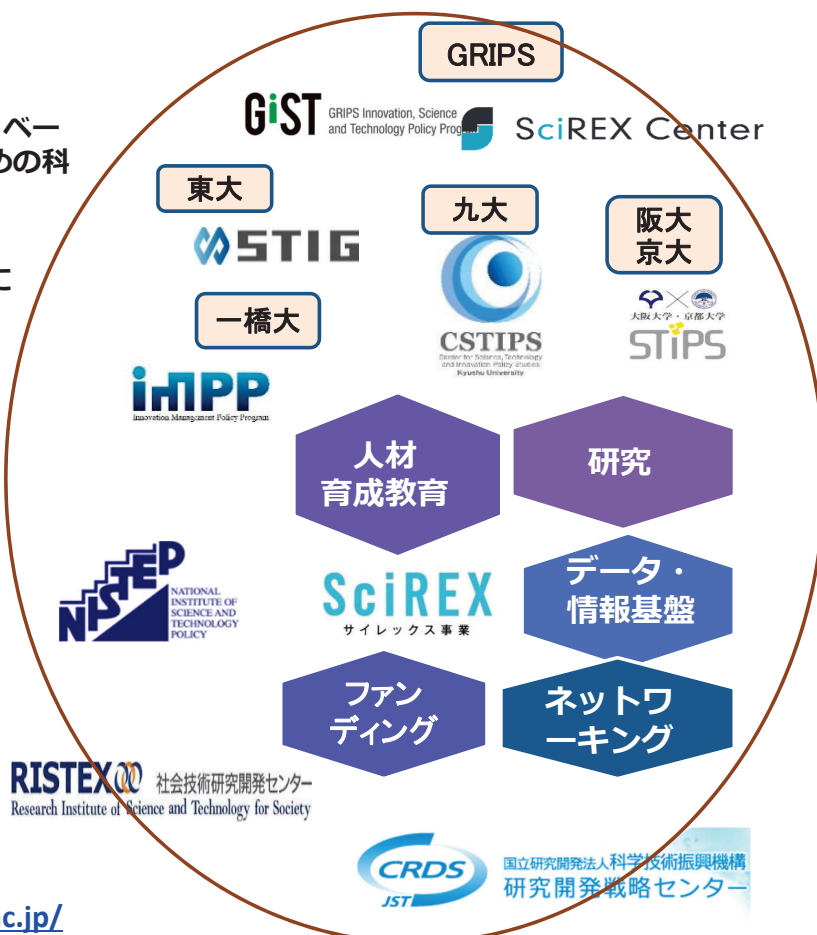
Science for RE-designing
Science, Technology and
Innovation Policy

 文部科学省

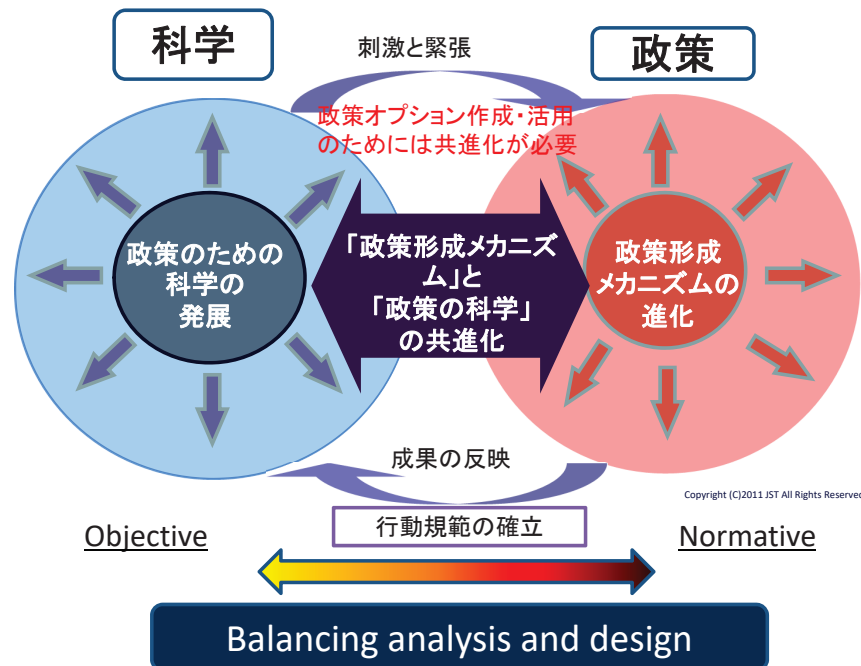


 社会技術研究開発センター
Research Institute of Science and Technology for Society

<https://scirex-core.grips.ac.jp/>



「政策形成メカニズム」と「政策の科学」の連携による共進化
 - 政策選択過程への理解と合意形成の議論の場の形成と方法の開発・理論化



科学技術振興機構 研究開発センター 「エビデンスに基づく政策掲載のための『科学技術イノベーション政策の科学』の構築」
<http://crds.jst.go.jp/singh/wp-content/uploads/10sp133.pdf>

SciREXの「これまで」と「今」と「これから」
 — 政治・軍事・経済・生活・価値観の激変の15年と
 新常态に移行する？次の10年 —
 - 2011 - 2025 - 2035 -

パネルの進め方:70分

前半:30分

○司会:イントロ

○各パネリストから5分ずつ発言・コメント

- ・成果と課題
- ・各セクターの役割と規範、個人レベル、組織レベル、組織連携、国際協力
 - ・できたこと
 - ・やりたかったが難しかったこと
 - ・将来への期待

○順番

- ①林先生(人材育成・研究、組織連携等)
- ②赤池先生(データ情報基盤整備、政治と科学の架橋)
- ③中澤課長(共進化、行政官の思考行動)
- ④安藤さん(ネットワーク、中間人材)
- ⑤有信先生(全体)
- ⑥パネリスト間で若干の意見交換

後半:30分

○会場から質問・コメント・提言を頂く:15分

数人:一人2、3分

○パネリスト応答、討論:15分

まとめ:10分

○各パネリストからコメント(各2分)

○有信先生のコメント

○司会おわりに

OECD/CSTP ; “STI Outlook 2023 & 2025 ”

● STI 政策の「安全保障化 (securitisation)」を指摘。

1. STI政策と産業政策と安全保障政策と外交政策の相互作用の急拡大。
2. これまで安全保障問題として捉えられてこなかった政策課題(気候変動、移民、食糧、エネルギー、新興技術等)も安全保障問題として捉える。
3. 新しいSTI政策のフレームワークとして「**技術主権**」(technological sovereignty)や「**戦略的自律性**」(strategic autonomy)という概念の登場。



● 主要国・地域では、以下の3つの観点からSTI政策を考えるようになった。

1. **保護 Protection**: 輸出規制などの規制政策、サプライチェーンの多様化対策などを通じ、知識・技術の流れを制限し、依存リスクを低減。
2. **促進 Promotion**: 人的イノベーション政策、ミッション志向のイノベーション政策、産業戦略などを通じた、国内のイノベーション能力・パフォーマンスの向上。
3. **投射 Projection/Partnering**: 技術・サプライチェーン・標準化等での国際連携とブロック化。

● STIのレジリエンス機能の強化、STI 政策と国際協力の方角性の明確化。

- 各国政府は、問題を省庁横断で扱い、問題ごとに調整する必要。
- 一律の対策を避け、ケース・バイ・ケースで戦略的競争を吟味・対応すべき。
- 激動する不確実な環境の中で十分な情報に基づいた意思決定を行うために、ホライゾンキャニング、先見性、技術評価、評価等の「**戦略的インテリジェンス**」が必要。

“21世紀の科学者技術者像”
国際学術会議 (International Science Council) 提案、2021年

“the experience of pandemic has served to illustrate and affirm that boundary roles in the Science-policy-society ecosystem are distinct from the conventional scientific work of research, publication and dissemination. They include: 1. Scientific knowledge generators: researchers and technical experts. 2. Scientific knowledge synthesizers: with specialized skills in knowledge integration and meta-analysis. 3. Scientific knowledge brokers: those who work as multidirectional conduits between SPI stakeholder groups. 4. Science communicators.”

パンデミックの経験は、科学-政策-社会のエコシステムにおける境界の役割の重要性を認識させ、研究、発表、普及という従来の科学的作業とは異なることを明らかにした。1. 科学的知識の生産者：研究者や技術専門家。2. 科学的知識の統合者：知識の統合やメタ分析の専門的能力をもつ者。3. 科学的知識の仲介者：エコシステムの関係者を多面的に繋ぐ者。4. 科学コミュニケーター

EU/Joint Research Center, “Science for Policy Handbook”, October 2020

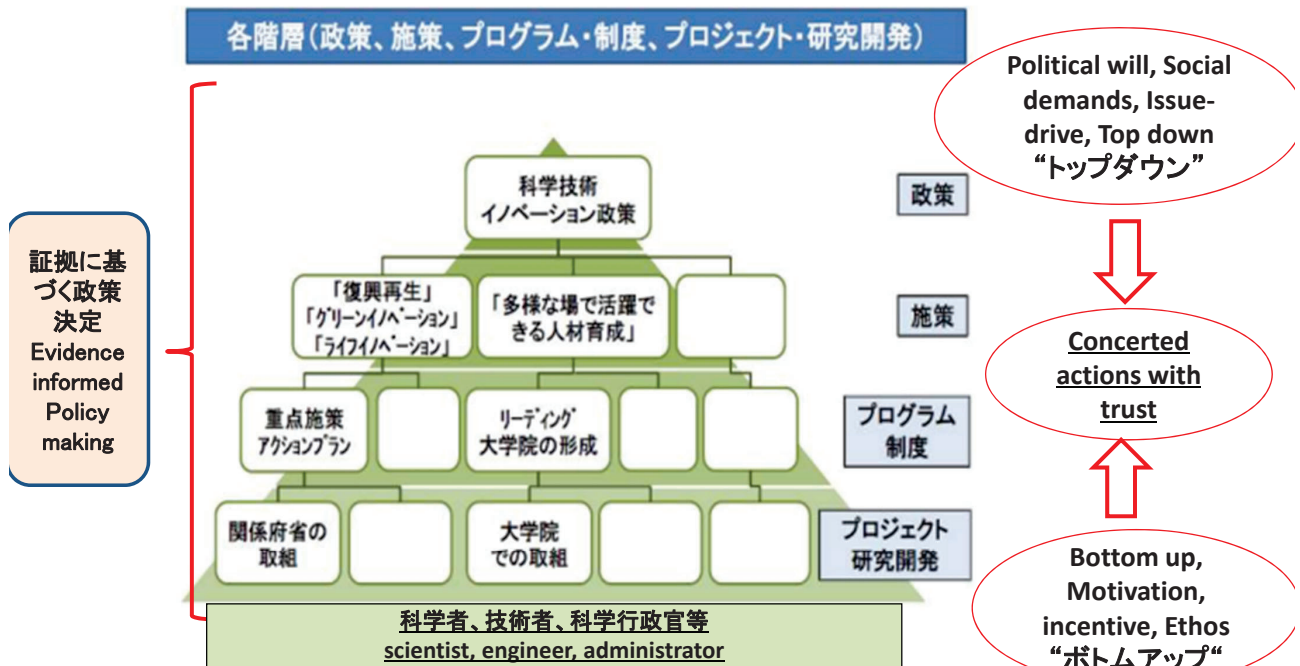
- The Changing Relationship between Policy, Science and Society; “ It is clear that any organization wishing to translate knowledge into policy advice must reflect on the profound recent changes observed in the science, society and policy nexus.” 政策・科学・社会の関係の変化：知識を政策助言に結びつけようとする組織は、3者の関係性の最近の大きな変化を反映しなければならない。
- The importance of boundary organizations and skills. 架橋する組織と能力の重要性。
- “A new type of scientist is needed, one that is motivated by the policy impact they can have, as well as scientific curiosity and academic reputation. Constant interaction and cooperation between science and policy should be the main working method. 新しいタイプの科学者が必要。科学的好奇心や学術的評価にくわえて、政策的影響に動機づけられて、科学と政策の間の絶え間ない相互作用と協力を主な仕事の方法とする者である。

参考

科学技術イノベーション政策における階層構造

総合科学技術会議が示す政策の階層構造

赤池さん資料から筆者加筆



政策の階層構造、組織の階層構造、予算の階層構造、評価の階層構造
→どのように一致させるかがマネジメントのポイント

SciREX コアコンテンツ

<https://scirex-core.grips.ac.jp/>

